

## Naomi's neighbors

### ナオミの近所の女たち

#### ルツ記 1:19-22

**1:19** 二人は（ナオミとルツ）旅をして、ベツレヘムに着いた。彼女たちがベツレヘムに着くと、町中が二人のことでの騒ぎ出し、**女たちは**「まあ、ナオミではありませんか」と言った。**1:20** ナオミは**彼女たち**に言った。「私をナオミと呼ばないで、マラと呼んでください。全能者が私を大きな苦しみにあわせたのですから。**1:21** 私は出て行くときは満ち足りていましたが、主は私を素手で帰されました。どうして私をナオミと呼ぶのですか。主が私を卑しくし、全能者が私を辛い目にあわせられたというのに。」**1:22** こうして、ナオミは帰ってきた。モアブの女ルツと一緒にあった。ベツレヘムに着いたのは、大麦の刈り入れが始まったころであった。

#### 好きな人物

##### ルツ記の中で、誰が好きですか？

ある人たちはボアズ、またある人たちはナオミを選ぶかもしれません、この質問の一般的な答えはもちろんルツでしょう。モアブの若いやもめの信仰は、素晴らしいものです(1:6-18)。彼女のナオミに対する愛と忠誠心も、同じく称賛に値するものです(4:15)。また彼女の高い道徳規準と仕事に対する模範的な姿勢も、はっきりと見られます。この書が、他の人ではなくルツの名前が付けられている事は、驚きではありません。

#### ルツ記 4:13-17

**4:13** ボアズはルツを迎え、彼女は彼の妻となった。ボアズは彼女のところに入り、主はルツを身ごもらせ、彼女は男の子を産んだ。**4:14** **女たちは**ナオミに言った。「主がほめたたえられますように。主は、今日あなたに、買い戻しの権利のある者が途絶えないようにされました。その子の名がイスラエルで打ち立てられますように。**4:15** その子はあなたを元気づけ、老後のあなたを養うでしょう。あなたを愛するあなたの嫁、七人の息子にもまさる嫁が、その子を産んだのですから。」**4:16** ナオミはその子をとり、胸に抱いて、養い育てた。**4:17** **近所の女たちは**、「ナオミに男の子が生まれた」と言って、その子に名をつけた。**彼女たちは**、その名をオベデと呼んだ。オベデはダビデの父であるエッサイの父となった。

私たちは、ルツの模範から多くの事を学ぶべきです。しかしながら、聖書の各書の中から自分の好きな人物を選ぶことには、一つの危険な事もあります。それは、いつもその好きな人に焦点を合わせてしまい、他の登場人物から学ぶことのできる大事なことを見落としてしまう事です。

1章と4章に出る近所の女たちは、多くの人の想像以上に、この話の中で重要な役割を持っています。ボアズや他の人たちと共に、彼女たちを通して、私たちは当時のベツレヘムの町の事を見ることができます。

## 否定的に見ると…

ルツ記の否定的な要素のほとんどはナオミについて向けられています。①彼女はモアブに行くべきではなかった(1:1)。②彼女は息子の嫁に、偶像崇拜の地に留まれと言うべきではなかった(1:15)。③彼女は苦い思いを持つべきではなかった(1:20-21)、などの点があげられます。

もう一人の否定的な人は、ルツを贖いたくなかった近い親戚(4:4-6)です。彼がそうしなかったのは、ちょうど良いサマリヤ人の話の中で、祭司やレビ人が強盗に襲われた人を助けるのを拒んだことに似ています。

(参照:ルカ10:29-37)

ナオミの近所の女たちについて言える否定的な事の中心は、彼女たちの無名な事です。しかし私たちは、案外と彼女たちの事を知ることができます。ですから、下のワークシートのAの中で、少なくとも一つは、部分的に正解であるだけです。

次に、その女たちとルツ記の他の登場人物を比べて見る事は、役に立つかもしれません。また、イエス様の誕生の事で神を讃美称えた、ルカ2:36-38のアンナと比べて見るのもいいでしょう。その比較についての事が、下のBにあります。半分位の問答文だけが正解です。

以下の文を読み、正しいと思うものには(○)正しくないものには(X)、部分的に正しいと思うものには(△)をつけて下さい。

|     |   |
|-----|---|
| A   | ( ) 近所の女たちは無名で、目立たない。                     |
| A-1 | ( ) 彼女たちが何人だったかは、わからない。                   |
| A-2 | ( ) 彼女たちは2章と3章には出てこない。                    |
| A-3 | ( ) 1:19-20では、「彼女たち」と代名詞でしか出てこない。         |
| A-4 | ( ) 彼女たちは豊かだったか、貧しかったかはわからない。(3:10, 4:15) |
| A-5 | ( ) 彼女たちは若かったか、年配だったかわからない。(1:19, 4:17)   |
| B   | ( ) 近所の女たちは、中心的な登場人物ではない。                 |
| B-1 | ( ) 彼女たちは、ナオミやルツのように苦しまなかった。              |
| B-2 | ( ) 彼女たちは、ナオミをボアズほどには助けなかった。              |
| B-3 | ( ) 彼女たちはただの脇役で、他の人が話すのを助けた。              |
| B-4 | ( ) 彼女たちはナオミやボアズほどたくさん話さなかった。             |
| B-5 | ( ) 彼女たちはルツのように外部の者ではなかった。                |
| B-6 | ( ) 彼女たちはルカ2章のアンナのように非重要な登場人物である。         |

## 肯定的に見ると…

聖書や他の本でも、目立たない登場人物というのは、ほとんど語らないものです。しかしひツレヘムの女たちは、私たちの想像以上でした。実際最後の章では、ナオミやルツの言葉が何もないのに、彼女たちが声をあげている様子は印象的です。

それは、1章と正反対です。ナオミだけが話していて、周りの友人たちには黙って聞いていただけでした(1:19-21)。ナオミは、1:20-21で話した否定的な言葉の事を、よく非難されます。しかし友人たちが黙って聞いてあげた事は、疑いもなく、良い事でした。(ヨブを慰めるはずの友人たちも、もっとそのようにすべきでした。)

ある人々は、ナオミが4章で十分感謝していない、と考えます。近所の女たちのように、喜びを表現すべきだと。ナオミについてのこのような見解は、ナオミと他の近所の女たちとの近い関わり合いを見ていない事から来ます。彼女を親しい、強いグループ関係の一員としてではなく、個人として見ているからです。1章で、ナオミが自分の悲しみを、良く知っている友人たちと分かち合っているのは当然のことです。そしてルツ記の最後のところで皆がナオミと共に喜びの声をあげているのも、当然のことです。その感謝と賛美は、ナオミを含むその近辺の人々みなのが心を表わしているでしょう。

下の文を読み、正しいと思うものには(○)正しくないものには(X)、部分的に正しいと思うものには(△)をつけて下さい。

|      |   |
|------|---|
| C    | ( ) 近所の女たちは、良いことを言い、また良いことをした。          |
| C-1  | ( ) 彼女たちはモアブには行かなかった。(1:1-2)            |
| C-2  | ( ) 彼女たちはナオミに同情した。(1:19-21)             |
| C-3  | ( ) 彼女たちは、たぶん収穫の時に手伝った。(1:22-2:3)       |
| C-4  | ( ) 彼女たちは、ルツのナオミに対する愛を称えた。(4:15)        |
| C-5  | ( ) 彼女たちは、将来の贋い主、キリストについて話した。(4:14)     |
| C-6  | ( ) 彼女たちはナオミの物質的な必要のために助けたかもしれない。       |
| C-7  | ( ) 彼女たちは神様がナオミになさった事に感謝した。(4:13-14)    |
| C-8  | ( ) 彼女たちはボアズと同じく(2:4)、信仰を持っていました(4:14)。 |
| C-9  | ( ) 4:11-12で長老たちが祈ったように、彼女たちも祈った。(4:15) |
| C-10 | ( ) 彼女たちがオベデと名づけた事は、ナオミとの親近感を表わしている。    |
| C-11 | ( ) 彼女たちはルツ記で最後に語った者たちである。(4:17)        |
| C-12 | ( ) 彼女たちはナオミやボアズと共に喜んだ。(4:14,17)        |
| C-13 | ( ) 彼女たちは主をほめたたえた。(4:14, ルカ2:38)        |

## ワークシート答え

女たちがナオミやボアズと共に喜んだ、という問答文(C-12)は、部分的に正しいとしか言えません。彼女たちは、オベデの父については、何も言いませんでしたから。4:14-15で言われている「買い戻す者(贖い主)」は、ボアズではなく、オベデの事です。ボアズ(またオベデ)とキリストには、贖い主としての重要な類似性がありますが、女たちは将来ベツレヘムでお生まれになるメシヤについては、直接何も語りませんでした(C-5)。

近所の女たちは、彼女に耳を傾けて同情し(C-2)、助け、また共に喜び、生まれた子にオベデと名づけました(C-10)。彼女たちは、ナオミの物質的必要についても助けたかもしれません(C-6)。しかし、ただボアズの事だけが書かれています。だから、町の女たちはボアズと違った助け方をしましたが、それは彼よりも小さい助けだったとは必ずしも言えません。(B-2は、ただ部分的に正しいです。)

ナオミの友人たちは、多分大麦の刈り入れの手伝いはしなかったでしょう(C-3)。若い女たちだけが畠で働いたようです(2:8, 3:2)。ナオミに話しかけた女たちは、ナオミを長い間知っていた者たちだったので、若くはありませんでした(1:19)。ベツレヘムでは、年配の信仰深い男女が敬われ、ルツ記の最後にも彼らの言葉が記されています(C-11)。明らかに、彼らは脇役ではありませんでした。(B-3)

## 適用

あなたが一番重要、また必要と思われる事柄を上から選んで適用して下さい。

## それで?

ルツ記においては、ベツレヘムは信仰深い男女のいる町として描かれています。それは士師記の最後に描かれている、イスラエルの悪い状態とは反対です。士師記19章から21章は、強姦や同性愛、殺人や国内の戦争などであふれています。しかしルツ記のベツレヘムでは、そのような罪の行為はほとんど見ることができません。(2:22は一つの例外かもしれません。)

この明確なコントラストは、マタイ1章のヘロデ王支配下の罪深いエルサレムと、ルカ1章の神殿を中心に描かれている敬虔なエルサレムの違いと、良く似ています。さらにルカの最初のいくつかの章は、エリサベツやマリヤ、アンナがキーパーソンになっている事で、ルツ記に似ています。ルツ記には処女降誕はありませんが、オベデもまた神様からの祝福と賜物です(4:13-14)。

ルツ記にはまた、神殿も幕屋も出てきません。しかしそれは、ベツレヘムの人々の敬虔さが地域や家庭の中で培われた事を示しています。士師記は、イスラエルの国と礼拝が、全体的に堕落した様子を見せていますが、敬虔なナオミの近所の者たちは神の贖いを讃め称えています(4:14-15)。ルカ2:38のアンナのように、ナオミの友人たちは神の救いに感謝しています(C-13)。